

今週の為替相場見通し(2021年5月31日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		108.57 ~ 110.20	109.87	109.25 ~ 111.00
ユーロ	(ドル)		1.2133 ~ 1.2266	1.2193	1.2100 ~ 1.2300
(1ユーロ=)	(円)		132.53 ~ 134.04	133.90	133.00 ~ 135.00円
英ポンド	(ドル)		1.4092 ~ 1.4220	1.4185	1.4140 ~ 1.4370
(1英ポンド=)	(円)	*	153.77 ~ 156.08	155.83	154.50 ~ 157.50
豪ドル	(ドル)		0.7678 ~ 0.7796	0.7710	0.7600 ~ 0.7800
(1豪ドル=)	(円)	*	83.97 ~ 85.15	84.72	83.40 ~ 85.90円

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

金融市場部 グローバルFIチーム 大庭 泰典

(1) 今週の予想レンジ: 109.25 ~ 111.00 円

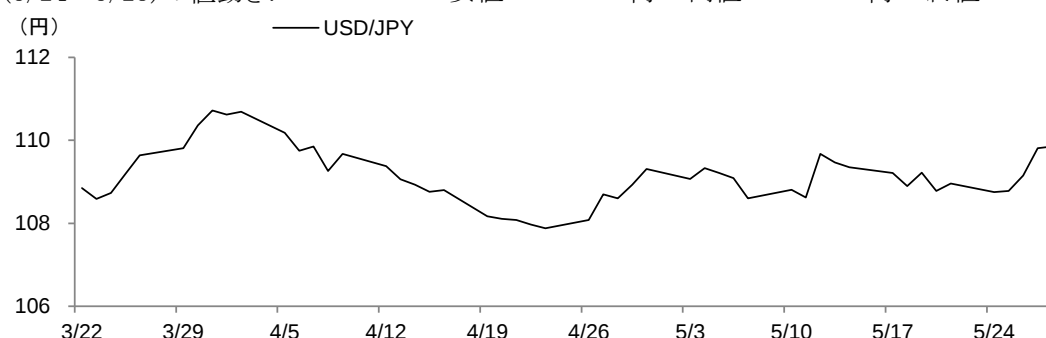
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は一時110円台まで上昇。週初24日は、108.90円台でオープンしたドル/円はブレイナードFRB理事が長期的なインフレ期待は極めて安定した状況が続いているとの見方を示す中、米金利が1.60%を下抜ける展開にドルが売られ、108.70円まで下落。25日は仲値にかけて輸入企業のドル買いが目立ったが、Fedメンバーのハト派姿勢継続から一時108.57まで下落。米3月住宅価格指数が予想を上回り、金利低下が落ち着く動きにドル/円は109.07円まで戻すが、米4月新築住宅販売件数が予想を下回り、前回分も下方修正され、米5月消費者信頼感指数も予想を下回り、前回分も下方修正されたことから108.87円まで下落。26日は特段材料に欠ける中ドル/円は109円台を回復し、午後米長期金利上昇を受けたドル買いに109.18円まで戻す。クオールズFRB議長が「経済が今後数カ月で予想を上回るようであれば、テーパリングの議論を始めるべきだ」と発言したものの、ドル/円の反応は限定的となり、その後は高値圏での推移が続き、109.14円でクローズ。27日は米第1四半期GDP(2次速報)発表を前に強い結果に対する期待や月末のリバランス絡みのドル買いの思惑に109.40円まで上昇。しかしGDPが6.4%と予想6.5%に届かず一旦下押しする。その後米金利が上昇する展開にドル/円は上昇し109.83円でクローズ。28日は米4月個人所得が予想程低下しなかったものの、前回分が下方修正され強弱混在の結果であったが、個人支出が予想と一致するが前回分が上方修正され、PCEコアデフレーターが予想を上回り110.20円まで上昇。しかしこのレベルはレジスタンスとして意識されたことや、月末絡みのドル買いが終わったとの見方から反落し、米金利も低下する中110円を割り込み109.74円まで下落。結局109.87円で越週した。

今週のドル/円相場は経済指標の結果に振られる展開となると思われるが、ワクチン接種の拡がりに伴い、景気動向も良好なものが続くと考えられ、ドル/円も底堅い推移を予想。市場期待通りであれば、ドル/円は110円台をしっかりと推移するであろう。一方で、週末の米5月雇用統計を控えていることや、110円から111円台では売り圧力も相応にあると思われ、米経済指標が良好でも週末の米雇用統計前までの上値は111円付近では一旦様子の展開を予想する。今週の経済指標は1日(火)米5月製造業PMI(確報)、米5月ISM製造業景況指数、米5月ダラス連銀製造業活動、3日(木)米5月ADP雇用統計、米5月サービス業PMI(確報)、米5月ISM非製造業景況指数、4日(金)米5月雇用統計が控えている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(5/24~5/28)の値動き: 安値 108.57 円 高値 110.20 円 終値 109.87 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 大谷 未央

(1) 今週の予想レンジ: 1.2100 ~ 1.2300 133.00 ~ 135.00円 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドルは週半ばに上昇する展開。週初24日1.21台後半でオープンしたユーロ/ドルは、米金利低下を受けたドル売りから1.22台前半まで上昇。翌25日は独5月IFO景況感が市場予想を上回ったことや、前日からのドル売りの流れに週高値である1.2266まで上昇したが、その後は米株式相場が軟調に推移する中ドル買い優勢となり、1.22台前半まで下落した。26日は1.22台前半を方向感なく推移していたユーロ/ドルであるが、ロンドンフィックスにかけてドル買いが強まり、1.21台後半まで下落。27日も方向感に乏しい推移が続き、ユーロ/ドルは1.22を挟んでの値動きが続いた。28日は、月末のドル買いフローによりユーロ/ドルは週安値である1.2133まで下落。その後ドル買いが落ち着くと再度1.22台前半まで上昇し、1.21台後半で越週した。週初24日132.70円台でオープンしたユーロ/円は小動きの中、週安値である132.53円まで下落したが、その後は米金利低下を受けたユーロ/ドルの上昇から133.00円台前半まで上昇した。翌25日は独5月IFO景況感が市場予想を上回ったことや、リスクセンチメントの改善から円が売られる展開にユーロ/円は133.60円台まで上昇。26日はロンドンフィックスにかけたユーロ/ドルの下落を受けて、ユーロ/円は133.00円台まで下落した。27日はバイデン米大統領が6兆ドル規模の来年度予算案を提示とのヘッドラインを受けて、米株価や米金利が上昇する中、リスクオフの円売りの動き広がりユーロ/円は週高値である134.04円まで上昇。28日はユーロ/ドルの下落に連れられ133.60円台まで下落する場面も見られたものの、その後133.90円で越週した。

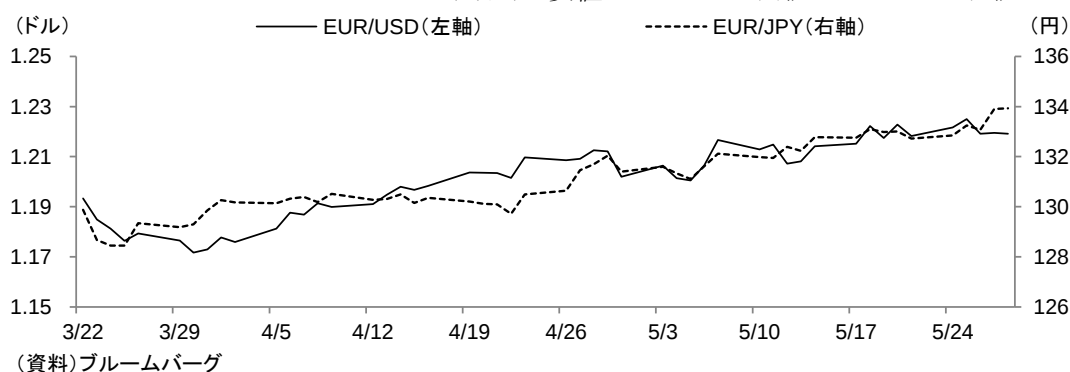
今週のユーロ/ドルは上値重い推移を予想する。先週はECB当局者からの発言が相次いで出ており、ラガルドECB総裁はパンデミック緊急買い入れプログラムの縮小について「議論するのは時期尚早であり、不必要だ」と述べている。また、パネッタECB理事や、デギンドスECB副総裁からも早期のPEPP規模縮小を否定する発言が相次いでおり、そのような中、ユーロが選好されるような地合いではないと考える。一方、米国においては、FOMC議事要旨にて一部テーバリングに関する議論が確認されている中、欧米における政策スタンスの差からユーロの上値は限定的であると考え。重要な経済指標としては、6月1日(火)にユーロ圏4月失業率、ユーロ圏5月消費者物価指数、4日(金)にユーロ圏4月小売売上高の発表を予定している。

(3) 先週までの相場の推移

先週(5/24~5/28)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2133 高値 1.2266 終値 1.2193

(対円) 安値 132.53 高値 134.04 終値 133.90



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.4140 ~ 1.4370 154.50 ~ 157.50 円

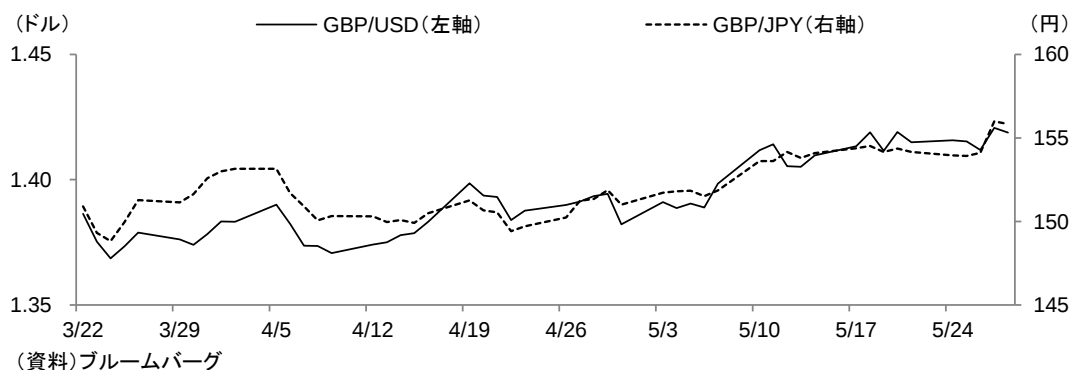
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、対ドルで小幅上昇、年初来高値の更新はならなかったものの、2016年の国民投票来の高値圏と言える水準で細かい上下動を繰り返した。対円では方向感を欠いた横這いの先行から、27日になって水準を一段切り上げ、予想外の上昇で、2018年2月来の高値を更新した。27日のポンド/円急騰を除けば、この間、ポンドはほとんど動いていないに等しかった。同日のポンド/円急騰は、英中銀金融政策委員会ブリハ委員の発言をきっかけとした。同委員は、「来年の早い時期の利上げも可能になるだろう」と述べた。「政府支援終了後の労働市場の回復が順調ならば」という条件付きだし、ブリハ委員自身、今年8月には退任予定で、来年以降の金融政策に関与することはないものの、コロナ禍以降、英中銀高官からの利上げに関する初の言及ということで大きな反応を誘った。また、同局面、ポンドは対ドル、対ユーロでも上昇し、全面高には達しなかったものの、同局面から週引けに掛けての主要通貨市場の様相は、円安の色彩の方が濃かった。ポンド/円の150円上抜けが、円全面安を促したように見えたし、28日には、ドル/円の110円突破(上抜け)が、一時、ドル全面急騰(その後急落)を誘うなど、大台替わりの節目水準で、損失確定の円売りのような、思惑的な売買が値動きを増幅させていたように見えた。

今週の英ポンド相場は、続騰を予想。今次局面(コロナ禍以降)の金融緩和撤回/金融引き締め観測と通貨の関係は、カナダ・ドルがひとつの先行指標となるのではないかと。カナダ中銀が金融緩和規模の縮小、利上げ開始時期の目途を来年に前倒したこと(4月21日)をきっかけに、カナダ・ドルは対ドルで3週間ほど上昇を続けた。その後、足下は横這いに落ち着いているものの、高値圏にあることは違いない。ポンドも、堅調が数日で収束すると思われるよりは、少なくとも数週間は続くと思込むのが妥当ではないか。また、英中銀の他にも、この間、ニュージーランド中銀が利上げ開始時期に言及(26日)、韓国中銀がGDP、CPI見通しを大幅上方修正するなど(27日)利上げ開始に前向きな姿勢を示し、それぞれ通貨高を招いていた。こうした通貨の動向も、ポンドの先行きを占う上で参考になるだろう。一方で、英要因では、先週(26日)、カミングス前首相首席補佐官が、「ハンコック保健相は繰り返し嘘をついた」「ジョンソン首相はその任に値しない」などと現保守党政権のコロナ禍対応を酷評した。政権の中核にいた人物からの政権批判は、場合によっては政局不透明感からポンド下押しを誘ってもおかしくなかったはずだが、対ドルで僅かに下振れしただけで(この下振れもドル高の側面の方が強かった)、ポンドは極めて限定的な反応しか示さなかった。通貨市場が、金融政策動向以外の要因に関心を払っていない現状を反映した出来事と言え、こうした状況も、(金融政策動向に着目した)ポンド堅調の継続を予見させる。また、ポンド/円は、先週、39か月ぶりの高値を更新してしまったが、ポンド/ドルも直近高値(2月24日の1.4240)、2018年4月の高値(1.4377)などを射程に入れており、こうした水準を試しに行く可能性が考えられることも、ポンド上振れを警戒させる要因と言えるだろう。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(5/24~5/28)の値動き: (対ドル) 安値 1.4092 高値 1.4220 終値 1.4185
(対円) 安値 153.77 高値 156.08 終値 155.83



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 安藤愛

(1) 今週の予想レンジ: 0.7600 ~ 0.7800 83.40 ~ 85.90円 円

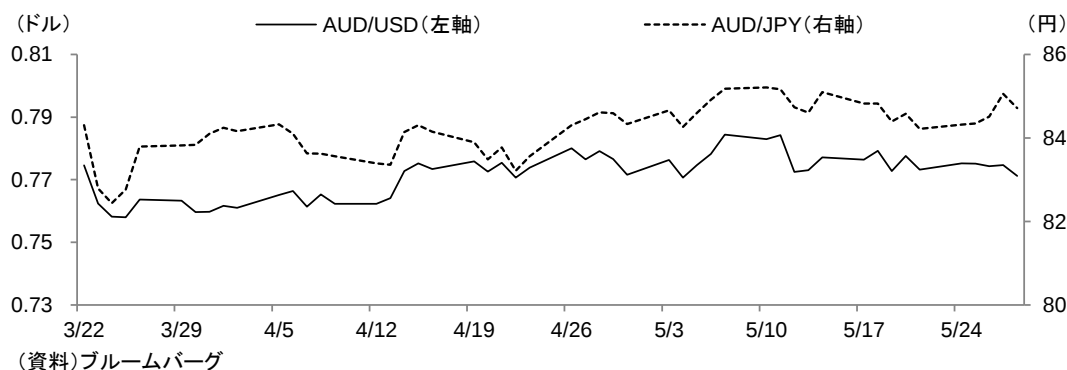
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は0.77台を中心にレンジ推移。24日、中国の国家発展改革委員会が商品市場を巡る違反を厳しく処罰する方針を示したことを受けて鉄鉱石価格が続落すると、一時0.7706近辺まで下落。その後、ハイテク銘柄中心に米株が上昇する動きに、豪ドルも連れ高となり0.77台半ばまで戻した。25日、材料難で0.77台半ばでレンジ推移。26日、RBNZが金融政策を据え置く一方で、来年下半年の利上げ予想を発表したことが市場にサプライズを与え、NZドルは大幅上昇し、豪ドルも連れ高の展開に一時0.78手前まで上昇。その後、欧米時間に入り月末調整の米ドル・ショートカバーの流れが強まると、豪ドルは0.7740近辺まで下落した。27日、ビクトリア州ロックダウンのヘッドラインを受けて弱含み0.7723近辺まで下落。欧米時間かけて株価が上昇するものの、豪ドルは上値重く0.7740近辺を中心にもみ合い。28日、ロンドンオープン後、月末のドル買いの動きが強まり、豪ドルはスルスルと下落。注目された米4月PCEコアデフレーターが予想を上回ると、米ドルが買いで反応し、豪ドルは一時0.7678まで下落した。ただし、インフレ率上昇は一時的とのコンセンサスが形成されつつある中で米ドルはすぐに売り戻され、豪ドルも0.77台前半まで上昇して引けた。

今週の豪ドルはイベントを控えて方向感の出にくい相場展開を予想する。今週は1日(火)RBA理事会、2日(水)豪Q1GDP、3日(木)豪4月小売売上高、4日(金)米5月雇用統計等、イベントが盛りだくさんの週となる。前回のRBAでは、量的緩和プログラム拡大およびYCC対象債券の変更に関する決定を7月理事会で行う旨を発表して、市場にサプライズを与えた。先週のRBNZでは来年の金利見通しを公表してタカ派姿勢を示したが、RBAが同様にタカ派姿勢を示す可能性は低いと考える。先週ロックダウンに踏み切ったビクトリア州のコロナ新規感染がいまだに継続しており、ロックダウンの延長も視野に入ってきている。これまでのロックダウン時と異なり、今年3月末で連邦政府による給与補助制度(ジョブキーパー)が終了していることから、失業者や企業倒産の急増を懸念する声が上がっている。こちらの動向にも注意を払いたい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(5/24~5/28)の値動き: (対ドル) 安値 0.7678 高値 0.7796 終値 0.7710
(対円) 安値 83.97 高値 85.15 終値 84.72



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。